

子育て支援フォーラム 2022  
命を育む性教育

2023年2月4日(土) 10:30~12:30  
会場:生活クラブ館スペース 1・2 オンライン併用  
申込締切 1月30日(月) 参加費無料  
講師:「命育」代表 宮原由紀さん



日本で唯一の性教育に特化した保護者向け情報サイト「命育」の活動や、性についての正しい知識を発信していく取り組みについてお聞きし、地域の中でどのように市民が連携していくかを考え、それぞれの地域活動に繋げていく機会とします。

★地域の活動紹介(予定):稲城、多摩、世田谷

問合せ:インクルーシブ事業連合  
Tel 03-5426-5207  
申込フォームはこちら→



ACT 公開講座

認知症になっても自分らしく暮らし続けるために  
～成年後見制度の利用のススメ～

2023年2月18日(土) 13:30-15:30  
(オンラインのみ)  
申込締切 2月9日(木)  
講師:NPO 法人成年後見なのはな  
代表 土井雅生さん



65歳以上の4~5人にひとりが認知症になるといわれている時代。認知症になっても安心して暮らしていくために利用できる成年後見制度は、不安解消につながる身近な制度。長年、NPO 法人として後見活動を担ってきた講師に、制度の内容とその利用の極意を聞きます。

「NPO 法人成年後見なのはな」は2006年6月に千葉市で発足、幅広い分野にわたる専門家や熱意のある市民72名(2022年9月現在)が会員として、法人後見の活動を行なっています。千葉県のほか東京都、神奈川県、埼玉県でも後見活動に取り組んでいます。

問合せ:アビリティクラブたすけあい  
Tel 03-5302-0393  
申込フォームはこちら→



インクルファンド・サポーター登録のお願い

あなたの1日10円で、つながり・支えあう豊かなまちを!



サポーター登録していただいた方からの月々300円の登録寄付を財源に、居場所づくり、子育て支援、障がい者(児)支援事業など、様々な事業や活動に費用を助成しています。ぜひサポーター登録して地域の活動をご支援ください!

● 班・個別配送の方は注文用紙(OCR用紙)に下記6桁の注文番号と申込口数をお書きください。

インクルファンド登録寄付 1口300円	
申込期間	12/26(月)~12/30(金)
注文番号	108413
集金月	2023年2月から毎月

インターネット注文 eくらぶからもお申込みいただけます。(1月2回)

\*登録寄付は中止のお申し出がない限り継続します。  
すでに登録されている方が申込みされると2月分の請求が重複してしまうのでご注意ください



● デポ組員の方はWEBサイトから <https://www.inclusive-gr.com/supporter/> へご登録いただくかお電話にてご連絡ください。

● お問い合わせ: インクルーシブ事業連合事務局 Tel:03-5426-5207 Fax:03-5426-5203  
(生活クラブ東京 たすけあいネットワーク事業部内) 担当:平岡 藤田



共に働く事業所報告会 2022  
働きにくさを抱えた人も、  
共に働く場を増やそう!

←フレッシュスタート目白

インクルーシブ事業連合では、どんな状況におかれている人も地域であたりまえに働くことができる場を増やし、インクルーシブな地域社会を実現するために、2016年度より「共に働く」事業所への寄付を募集しています。

寄付を受けた団体の活動を共有し、共に働く場を地域に広げていくために、10月22日に報告会を開催しました。

基調報告は、NPO 法人 VIVID の運営する「フレッシュスタート目白(就労継続支援 B 型事業所)」の管理者・遠藤伸さん。NPO 法人 VIVID は高次脳機能障害があっても、人生をあきらめずに希望をもって、もう一度人生のスタートラインに立つことができる支援を当事者の人々と一緒に作りだそうと、2007年に創設された NPO 法人です。リユースショップ、地域緑化作業などの請負作業、犬用クッキーなどの自主製品作成を行い、様々な人が同じ場所で同じ時間を過ごすことで少

しずつ関係性を築きながらその人に合った仕事をしていること、またその中での課題をお話いただきました。

昨年度「共に働く」事業所への寄付を募集した2団体からの報告として、NPO 法人エコメッセの大嶽貴恵さんからは、寄付をスタッフへの時給や着物ほどきの工賃に充てることができたとのことでした。「エコメッセは生きづらさを抱えていることを受け入れ、誰もが自信を持ってステップアップできる場所です!」という力強い言葉が印象的でした。また、NPO 法人こすもすの佐久間寛子さんからは、製菓用の冷蔵庫を購入し、仕事の幅が広がったとの報告がありました。メンバーが互いにエンパワメントしあう関係の中で、更に新たな取り組みを模索中とのこと。インクルーシブ事業連合ではこのような取り組みを引き続き応援していきます。

インクルーシブ事業連合事務局

東京都へ2023年度予算提案を提出



10月25日、都議代理人の岩永やす代さん(写真右から1番目)と共に、日々の活動や事業を通して現場から見える課題を予算提案としてまとめ、提出しました。

提案した項目(抜粋)

- ・知的障がい者の移動支援サービスに対する給付金額や時間量の自治体間格差解消に向けた支援を。
- ・病院内の介助は医療保険での対応とされているが、看護師不足もあり病院が対応することはほとんどない。通院介助を介護保険の対象とするように国へ働きかけを。
- ・小規模デイサービスの運営が厳しくなっている。身近な地域のデイサービスが存続できるよう支援策を。
- ・介護保険の東京都ソーシャルファーム制度の認証審査が公平公正に行われるよう審査員の公開を。
- ・今年10月1日より「労働者協同組合」の窓口が設置された。自治体がこの動きを捉え、協同労働の実態化が図れるようにするための積極的な促進事業を。

【インクルーシブ事業連合構成団体】生活クラブ生協・東京/NPO法人アビリティクラブたすけあい (ACT)/ACT たすけあいワーカーズ・コレクティブ連合/NPO 法人 ACT 人とまちづくり/社会福祉法人悠遊/東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合/東京・生活者ネットワーク/東京 CPB (コミュニティパワーバンク)/認定NPO 法人市民シンクタンクひと・まち社/NPO 法人まちぽっと/環境まちづくり NPO エコメッセ

## 認定 NPO 法人 市民シンクタンクひと・まち社

ひと・まち社の主な事業は、子ども・高齢者等に関する福祉の実情についての調査・研究と東京都福祉サービスの第三者評価事業です。発足は 1998 年に市民政策の立案を目標に東京・生活者ネットワークの調査研究機関として設立しました。介護の社会化を謳った介護保険法（2000 年施行）の準備期間と重なり、この時期行った高齢者の生活実態調査や東京・生活クラブ運動グループ福祉協議会との共同による 5 年間の定点調査「介護保険制度検証のための基礎調査」は、介護者の実態を明らかにし、介護サービスに自立支援の視点が重要であることや市民の目線でサービスを検証する必要性を見出し、ひと・まち社が第三者評価に参入するきっかけとなりました。

### 第三者評価事業

ひと・まち社は、東京都福祉サービス第三者評価事業に参入するため 2002 年に法人格を取得して評価機関になりました。評価者は 30 名おり評価実施にあたっては、チームによる丁寧な協議を心がけ、利用者の立場に立ったひと・まち社らしい評価を大切にしています。事業開始から 20 年が経ち、新人評価者も増えたことから、2022 年度は先達が積み重ねてきた評価にあたる心構えや姿勢、文章の表現方法などを整理し「ひと・まち社評価マニュアル」にしました。評価者は、評価手順を再確認して評価に取り組んでいます。2002 年から 2021 年度までの累計評価実績は 536 件です。今年も、年間目標を 10 件以上超えて 41 事業所と成約しています。

### 調査研究事業

利用者や市民の視点に立ち「介護保険制度に関する基礎調査」や「子どもの貧困に関する調査」に取り組み、調査から得た政策課題を地域活動や市民提案に活かせるようにしています。直近では介護予防・日常生活支援総合事業に関する調査や子どもの貧困をテーマにした調査などを行い、調査報告書にまとめています。ご希望の方はひと・まち社までお問い合わせください。

### 報告書

- ・新総合事業に関する市民の意向調査・自治体調査 2015～2017 年度
- ・地域包括支援センターに関する調査報告書 2019 年度
- ・子どもの自立と支援に関する調査報告書 2020 年度



\*お問い合わせはこちらから

ひと・まち社 TEL:03-3204-4342 e-mail:npo@hitomachi.org



## アビリティクラブたすけあい(ACT) 設立 30 周年記念イベント



～たすけあう今、つながる未来～

2023 年 2 月 12 日(日)13:00～16:00(開場 12:30)

武蔵野スイングホール レインボーサロン

(JR 中央線「武蔵境駅」下車徒歩 2 分)

基調講演:伊藤由理子さん(生活クラブ連合会)

<パネルディスカッション>

30 年のあゆみの映像、いきいきサークルや

まちの縁がわの活動紹介・作品展示など

参加費無料

ACT は今年 9 月に設立 30 周年を迎え、記念イベントを開催します。どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお越しください。ACT って何?どんな活動をしているの?ACT に興味をお持ちの方や、お近くの方もぜひどうぞ。心温まるひとときを、ともに過ごしましょう。ささやかなプレゼントも用意しています。

### たすけあう思いをかたちに 30 年

アビリティクラブたすけあいは、生活クラブの共済をすすめる活動から 1992 年に生まれました。年をとっても、病気になっても、障がいを持って自分らしく生活できる、たすけあう地域社会を目指しています。

家事援助・介護・子育て支援などの在宅ケアや共済、居場所づくりなど、たすけあいワーカーズやまちの縁がわ、ACT 人とまちづくりと共に、地域に必要なたすけあいのしくみをつくり、活動をしています。会員は約 5,300 人、たすけあいワーカーズは 32 団体、まちの縁がわは 14 団体になりました。活動をささげる会員も募集中です。

お問合せ、参加ご希望の方は下記までご連絡ください。

ACT事務局 TEL 03-5302-0393 FAX 03-5302-0394

参加お申込みはこちらから→



## 大ピンチ！介護保険 介護の日フォーラム参加報告



2000 年に介護保険がスタートしてから 22 年。改定の度にサービスは縮小され、制度は複雑化して使いくなくなっています。

10 月 29 日、3 年ぶりに「介護の日フォーラム」が開催され、今年 3 月にアビリティクラブたすけあい(ACT)、ACT 人とまちづくり、ACT たすけあいワーカーズ連合、生活者ネットワークなどが参加する「介護の崩壊をさせない実行委員会」が厚労省に要望書を提出した際の振り返りと、国会議員と市民によるパネルディスカッションが行われ、オンライン含む 200 人が参加しました。

実行委員会が国に要望したのは介護報酬の引き上げ、ケアプランの有料化、デイサービスの入浴加算の引き下げの見直し、小規模事業者への支援、通院介

助の現場で起こっている不合理の見直し等です。病院内での介助は医療保険の範疇とされ、看護師が行うという建前になっていますが、介助に携わるたすけあいワーカーズのメンバーからは実際にはヘルパーが介助するしかない状況にあることが現場のリアルな声として発信されました。

介護の社会化を目指してスタートした介護保険が、財政抑制ありきで改定されていく現状を変えていくことが必要です。

インクルーシブ事業連合の介護保険プロジェクトでも、次の 3 点について国への要望を提出する予定です。①利用者負担 2 割を標準化しないこと。②介護保険の入口であり、様々な福祉資源とつなぐケアプランを有料化しないこと。③要介護 1・2 については自治体による総合事業への移行も検討されているが、要介護 1・2 は認知症の利用者も多く、ほとんどが軽度の利用者ではないため、総合事業への移行はしないこと。

\*総合事業は、国が支える介護保険制度による支援とは違い、自治体が地域の実情に応じてサービスの運営基準、報酬などを独自に決められるため、専門性の確保や自治体間格差が懸念されています。

## 世田谷地域協議会 多摩川流域の防災まち歩き & 勉強会



11 月 1 日、NPO 法人まちぼっとの伊藤久雄さんを講師にお呼びし、3 年前大きな被害を出した台風 19 号、その後災害対策は進んだかという検証と、コロナ禍などで新たに見えてきた災害対策の課題を学ぶ「まち歩き&勉強会」を、生活クラブ運動グループ世田谷地域協議会主催で実施しました。

二子玉川地区には、川辺で暮らしてきた地元の歴史や、川辺のみどり豊かな景観を大切に思う住民の活動があり、街がつくられてきました。新旧 2 枚の堤防の間など浸水想定区域内に住宅地が開発されていること、多摩川の堤防の内側の国分寺崖線下の丸子川沿いに内水氾濫が起きやすいこと、激甚化する異常気象対策など、一筋縄ではいかない治水の難しさがこの街に現れています。複数の参加者から「現地でお話を伺うと良く分かり有意義」との感想をいただきました。

暗渠になっている谷川(やがわ)からの排水樋門も確認し、改めて自分の家の近くに、暗渠となった川や農業用水などが隠れていないか、思わぬ内水氾濫に備える大切さを共有。土壌ステーションで土壌を手に取り、事前の備えの大切さがズシリと心に残る勉強会となりました。

世田谷・生活者ネットワーク区議会議員 高岡じゅん子(写真下中央)



インクルーシブ事業連合では、地域協議会が主催する市民版地域福祉計画の策定につながるフォーラムの開催を支援しています。